

## 令和5年度 東谷地区町政懇談会

開催日時 令和5年7月11日（火）午後7時～午後8時20分

開催場所 谷口公民館

出席者 立山町 舟橋町長、杉田副町長、清水総務課長、成瀬住民課長、  
野田建設課長、松野水道課長、佐伯農林課長、  
柳田農林課長補佐、大崎農村環境係長、中西農政係長  
地元議員 伊東議員  
東谷地区自治振興会 高見会長  
企画政策課 瀬本課長、中川課長補佐、高江係長、  
藤田主任、白井主任、富崎主事、西村主事

参加者数 36名（うち町職員4名）

### 1 挨拶

町長 挨拶

高見振興会長 挨拶

### 2 懇談会

#### （1）町からのお知らせ

- ①豪雨災害復旧で使用した上下水道使用料の一部減免について（水道課）
- ②災害ごみの受け入れについて（住民課）
- ③豪雨災害による被害状況について（建設課・農林課）

#### （2）意見交換

##### （白岩地区住民）

- 白岩川が氾濫したということで、白岩橋が通行止めになった。旧上東中学校が避難場所になっているが、橋が渡れないため、白岩公民館を開け、下の集落の高齢の方の家をまわり、避難を呼びかけた。しかしさらに上に避難が必要と判断し、正恩寺に行った。その後、谷口集学校への避難指示が出たため、そちらに避難した。

今後、白岩川が氾濫した場合どこに避難すればよいか。

##### （町長）

ハザードマップにも記載しているとおおり、旧上東中学校が避難場所になる。

しかし今回は急に水位が上がり、白岩川が危険になった。この状況で橋を渡り旧上東中学校へ避難することは危険であると判断し、谷口集学校に避難してもらうよう指示した。

自らの判断で少しでも安全な場所へと、地区の方々を誘導されたこと、状況を見定めてどうすべきか対応されたこと、正しい判断をしていただいた。

##### （四谷尾地区住民）

- 田んぼに流木、ゴミが残っているが、水だらけで田んぼに入れない。秋になってから片付けようと考えている。法面の崩れは地権者が直さないといけないか。

(農林課長)

他の地区でも、泥がぬかるんで撤去作業ができないという声を聞いている。

現在、箇所を確認しており、作業については町も一緒に取り組む。箇所を確認した後、地権者とも相談して秋に備えたい。

(町長)

自分で直すという方もいる。写真を撮り、日付を記録してほしい。補償される場合もある。

水門に土砂が詰まっているところもあった。重機を使用する必要がある箇所、早急な対応が必要な箇所などはすぐに実施するつもりなので教えてほしい。

(四谷尾地区住民)

- 6月28日午前4時頃、白岩川は通常の水嵩よりも少し多いと感じた。昼頃にも雨が降っていた。

梅雨時であることも踏まえ、これは県の管理だが、あらかじめダム放水をしてもらえたらよかったと思う。県に申し入れしてほしい。緊急放水は白岩川ダムができてから初めてではないか。

この梅雨の時期、雨が降るから普段より貯水量を減らしていても大丈夫だったのでは。

(町長)

白岩川ダムの貯水能力が低下していたのではないかと考えられる。

5月に発生した長倉の山腹崩壊では、泥が白岩川に流れ込んだ。5月29日にヘリコプターで該当箇所の写真を撮ると、長倉の方に天然ダムができていた。しかし、数時間後にはその天然ダムがなくなっていた。その大量の土砂がダムに流れ込んでしまったことにより、貯水能力が低くなっていたのではないかと考えている。

7月3日、富山県知事に、早急に土砂を撤去するよう正式に要望した。7月4日、白岩川ダム管理事務所から連絡があり、「農家の方々、用水管理組合等から了承を得られれば、例年は10・11月に浚渫（しゅんせつ）を実施していたが、少しでも早めたい」という回答をもらった。

おっしゃる気持ちはよくわかるので、また伝えたい。

(六郎谷地区住民)

- 農林課長から話があったが、目桑の下の方で堤防が決壊し、水門も被害を受けた。私の集落の用水の取水口や、4月につけたばかりの水門も全部なくなり、用水があった姿すらなくなった。

水路がないと田んぼに水がいかない。現状、雨を頼りにするしかない。今後どうしたらよいか。

今後どのように復旧の計画を立てて、進めていくのか。説明の場はあるのか。

なお、法面の早急に対応してもらった箇所は直った。ありがとうございます。

(農林課長)

国の災害査定には約3ヶ月かかると言われているが、今回は規模が大きいため、約5ヶ月かかるのではないかとされている。

今後、8月までに被害箇所・規模を確認し、復旧方法を検討する。その後、9～11月で、国の災害査定を受けるための設計・測量などを実施する。査定を受けた後、年明けに工事の発注等を行う予定である。

今年の米について、できる可能性があるところは、なんとかしようとしている。ポンプで水を上げることも検討している。今やれるところは今やるという町長の方針もある。対応をしていきたい。

#### (四谷尾地区住民)

①昭和44年災害を経験している。その時は広範囲で被災し、泉地区、千垣地区などで人命救助を行った。復旧に7、8年かかった。今回、復旧対策に関する組織を一本化する考えはあるのか。

②川が氾濫した際に橋等を通行止めにするという対応は災害マニュアル等に記載がなかったと思う。四谷尾橋・四谷尾金剛寺線は地区住民が通行を止める対応をしていた。町に通行止めの要請をしたが、指示や現地確認等はなかった。警察からもなかった。

今回、町から通行止めの指示がされなかったことについて、検証してほしい。

#### (町長)

② 2点目から。四谷尾地区については四谷尾公民館で自主的に避難所を開設されていて、また、公民館は新しく、比較的土砂崩れの危険性も少ないだろうと、地区の方に対応を任せてしまい申し訳なかった。また橋の通行止めについて何か所か指示はしたが、ここについては対応を地区の方に任せてしまった。

通行止めをするにあたり、富山方面からの帰宅困難者のために町元気交流ステーション(みらいぶ)を避難所として開設した。また立山地区でも通行止めがあり、立山小学校で帰宅困難となった子どもの対応などもあった。

対応不足があったことについて、本当に申し訳ない。

① これ以上雨が降らなければ、7月14日頃に災害対策本部会議を復興と復旧の対策会議に切り替えたいと考えている。当面、建設課長をトップにして、技術職員をとりまとめるという形で対応していきたい。

今後のあり方について。全く水を被っていない田んぼもたくさんある。例えば芦見は白岩川からポンプアップし水が供給されているが、被災により現状水が供給されていない。ポンプの電源確保のため、電力会社に電柱を立ててもらおうよう要請し、早期の復旧を目指している。

六郎谷の用水については、短期間での復旧は困難な被害状況と聞いている。

目桑については、半年～1年ではもとに戻すことが難しいと思われるほどの被害状況になっているところもある。

どの田んぼ・用水を残すのか地区と検討することも必要と考えている。残すと決めたところについて、重点的に投資をしていく。また、県等と協力して、災害に強い川・用水にするということが必要だと思っている。

#### (四谷尾地区住民)

●災害で心を病むなど、健康面で心配な人もいる。そういった方の相談に乗ったり、話を聞いたりしていただきたい。

#### (町長)

健康福祉課でチームを作って個別訪問を実施したい。その際には、地区の方にも協力をお願いしたい。

(伊勢谷地区住民)

- 恒久柵が壊れたため、猪が入ってくる。復旧のお金はどうなるのか。

(町長)

災害復旧の場合は国に申請し、ほとんど地元負担なしでできる。まず写真を撮り、対応について農林課に確認してほしい。恒久柵は国の補助金で整備したので、地元負担なしで復旧できると思う。

(谷口地区住民)

- 意見というより感想になるが、今回、短時間に大雨が降った。

平成10年の時も大きな災害になった。私の田んぼは8割方埋まったが、激甚災害の指定をうけ復旧した。そのときは虫谷川の水量が満タンだった。

今回、虫谷川の水量は、午前中は半分くらい。その後、帰ってきたら満タンだったが、平成10年ほどではなかった。そのうち、緊急放流が行われた。白岩川は溢れそうになっていて、虫谷川も増水していた。川の合流地点では、みるみるうちに水流が増えて、堤防を越え、四谷尾の田んぼに流れていった。何十年住んでいてもはじめてとを感じる、予想がつかない水量だった。

今後、堤防の規模を拡大するなどの対策が必要だろうと思った。

(町長)

お配りした資料3(立山土木管内の被害状況図)をみると、ピンポイントで大量に雨が降ったことがわかる。目桑周辺では、1時間あたり80ミリを超えていた。平成10年の時は、長い時間雨が降り、栃津川と白岩川の合流地点でバックウォーター現象(支流の水が本流との合流地点で行き場を失い堤防の決壊につながる現象)が起きた。その時と違うのは、白岩川に集中したこと、雨がより短時間で大量に降ったことだと思う。

白岩川ダムの貯水能力を上げる、また護岸をより強固にしていくために、県と協力していきたい。

農山漁村振興交付金の最適土地利用総合対策について話をしたい。

今回の災害をうけ、100%田んぼを戻すことは困難だと感じている。これから地域の方々と話をしながら復旧していきたいと考えている。

東谷地区の中でも特にひどかったのが、旧東峯地区だと思う。後継者がいない土地等もあると思う。地域ぐるみの話し合いと、専門家によるコンサルティングも取り入れながら、5~10年後、東峯をどうするのか、東谷地区をどうするのか、土地利用計画を立てていきたい。

この交付金では、ソフト事業で毎年1,000万円を最長5年間受け取ることができる。この短期間の復旧のみを考えるのではなく、将来に向けたむらづくりをしていきたい。採択されるかどうかは分からないが、地区の承諾が得られれば、振興会の名前で応募することになると思うので、それで国に話に行きたい。役場だけでやるわけにはいかないの、地区で担当の方を人選して、一緒にむらづくりをしていきたい。100%元に戻すのは難しいとは思いますが、放り出すわけにはいかない。水田は無理でも違うものならできるかもしれない。そういうことを考えていきたい。農地係・農村環境係が協力させていただきたいと思っている。

(振興会長)

- 今回の豪雨災害をうけた、税金や確定申告についての話をしてほしい。

(農林課)

農林課では、農協や共済、富山県農林振興センター等と、被災農地の補償のことなどを情報共有している。

農業共済では、農地が全損した箇所については、早急に被災確認の上、対応していく考えであると聞いている。また被災農地で栽培可能な箇所については、例年の収穫量と比較し、その程度に応じて補償されるとのこと。

また今週から、農協の営農指導員が青田まわりということで地区をまわっている。豪雨災害をうけ、共済や振興センターの職員も同行しているとのこと。水がついた田んぼでは、今後栽培していくためには防除作業が必要になる。そういった注意点の情報提供があると思うので、確認してほしい。

また、生産調整、減反について、今回の災害により減収した場合の取り扱いについて、北陸農政局に確認した。農作物の損害高などにより、客観的に減収量が確認された分を考慮した割合で軽減されるしくみとなっている。農業共済の被災証明書や現地写真などが必要であることから、用意・手続きをお願いしたい。

(農林課長)

農業所得を申告される方が多いと思う。今回の災害を受け、農業所得がマイナスとなる場合があると思うが、その場合でも確定申告をしてほしい。マイナスの所得はゼロではなく、マイナスとして計上され、ほかの所得と合算されるので、確定申告をしないと損をする場合がある。1月末から役場で申告相談を受け付けている。補償で受け取った分も相殺する必要があるので、収支それぞれの書類を揃えて、確定申告をお願いしたい。

(白岩地区住民)

- 6月28日、町長をはじめ役場職員には本当に助けてもらった。ありがとうございました。

### 3 閉会

伊東議員 挨拶

終了